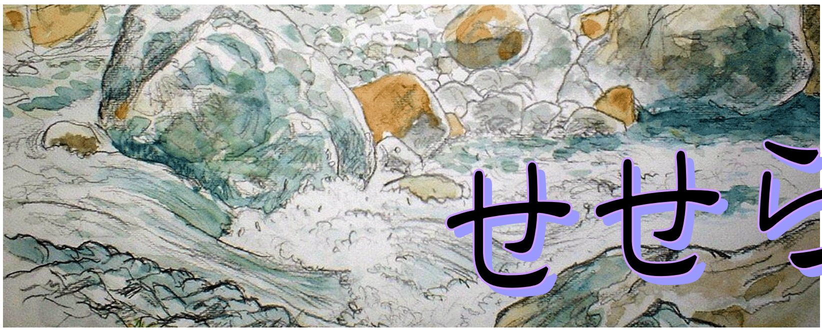
Vol.46　平成２８年１０月１１日（火）
検索　金目川　http://www.asahigs.co.jp/kaname-net/index.html　編　集・発　行
金目川水系流域ネットワーク
世話人会



せせらぎ通信

横浜ゴム平塚製造所、生物多様性モニタリングに参加

6月3日（月）～7日（火）
池田　正　博士（学術）

横浜ゴム（株）では、企業CSRの一環として**金目川の生物多様性保全活動**を進めています。その一つとして、金目川における**生物多様性モニタリング**や、金目川支川の**座禅川の源流域**にある駒ヶ滝近くの**ビオトープ作り**を行っています。当会もこの活動に協力しており、6月6～7日の2日間、平塚大橋と土屋橋、駒ヶ滝のビオトープでの生物多様性モニタリングに当会の池田会員が参加してきました。

生物多様性モニタリングには、横浜ゴム（株）の社員20名程度が参加しました。普段、生物に触れる機会の少ない方も多く、慣れない手つきながらも真剣にモニタリング調査に参加していました。水生生物調査では、魚が網に入ると歓声をあげていました。

調査方法を説明。初めてモニタリング調査に参加する方が多く、皆さん真剣に説明を聞いています。

表　生物多様性モニタリングで確認された代表的な種

場所	分類	代表的な確認種
平塚大橋	鳥類	ムクドリ、ハシブトガラス、シジュウカラ アオサギ、スズメ、ツバメ
	植物	ホソムギ、カモジグサ、ナギナタガヤ アリタソウ、ヨモギ、オオブタクサ、ヒメムカシヨモギ、コセンダングサ、ヤブマメ シロザ、キキョウソウ、ツルヨシ
	水生生物	ヒゲナガカワトビケラ、エルモンヒラタカゲロウ、オナガサナエトンボ、テナガエビ、スジエビ、モクズガニ、シマヨシノボリ、ウキゴリ
土屋橋	鳥類	カワウ、カルガモ、オオヨシキリ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス シジュウカラ、スズメ、カワラヒワ、ヒヨドリ、カワセミ、コチドリ、セッカ、ダイサギ
	植物	ホソムギ、カモジグサ、ヒメムカシヨモギ ツルヨシ、オオブタクサ、カラスノエンドウ、メマツヨイグサ
	水生生物	ヒゲナガカワトビケラ、ヒラタカゲロウ ナガレトビケラ、モンカゲロウ ハグロトンボ、ミズムシ、シマヨシノボリ ヌマチチブ、ウキゴリ
駒ヶ滝	鳥類	アオゲラ、コゲラ、キビタキ、ハシブトガラス、メジロ
	植物	ミゾソバ、ヤブミョウガ、アズマネザサ、カモジグサ、イロハモミジ、ツユクサ、ヨシ
	水生生物	サワガニ、ユスリカ、フタスジモンカゲロウ、ミズムシ、ヘビトンボ、ヨコエビ、アメンボ

透視度の計測。昔よりもだいぶきれいになった印象があります。

植生、鳥類、底生生物を調査しました。ホソムギやヒメムカシヨモギなど多数の外来植物が生育していることが分かりました。

採集された水生生物の一部。**ヒゲナガカワトビケラ**や**エルモンヒラタカゲロウ**などきれいな水に生息する種も採集されました。
シマヨシノボリや、**ウキゴリ**、**モクズガニ**などいろいろな生物が採取されました。

オオブタクサは、金目川の上流から下流まで広範囲で見られます。繁茂すると、本来の河原の植物の生育が困難になります。当会では、駆除活動も進めています。

河原でバーベキューを楽しんだ後はゴミを片付けてください。川はみんなのものです。

夏休み 金目川の生き物観察会

露木正巳

金目川に子供たちの声が響きます。

「大きいカニ」「つかまえた－！」「このエビ、手が長いよ」「お魚、つかまえた－！」「いいなあ、ぼくもとりたい」「ヤゴちょうだい」

今年の生き物観察会には、七十人程の子供たちと、その保護者が集まりました。長年続いてきた行事なので、金目川の夏の風物詩としてすっかり定着してきました。

東海大学北野ゼミの学生が各班について、子供たちに網の使い方などを教えていました。

「網で魚を追いかけてもとれないよ。網を川の底につけて、足でガサガサってやると、魚が網に入ってくるよ」「石の下に隠れているから、石の所をガサガサってやるんだよ」

金目川は、治水と利水のためにしっかり整備されています。今年は大きな増水による攪乱がなかったので、川の水深はほぼ一定になっていました。瀬や淵が無いので、生き物にとっては環境の多様性に欠けるとも言えますが、子供たちが川に親しむには絶好の条件でした。

大きめの石をひっくり返して、足でガサガサやると、**ヌマチチブ**や**ボウズハゼ**が網に入ってきました。**モクズガニ**もつかまりました。河原の草が覆いかぶさっている所をねらってガサガサやると、**テナガエビ**や**ヤゴ**が採れました。暑い日差しの中でしたが、川面を渡る風と足もとを洗う水が心地よく、あっという間の一時間でした。

川から上がり、みんなでつかまえた生き物を種類ごとに分けて水槽に入れて観察しました。水槽ごとに担当の学生が、名前や特徴を教えてくれました。捕った魚を持って帰りたいと言って、餌や飼い方などを聞いている子もいました。

ウナギと**ナマズ**のタッチングコーナーも人気でした。あらかじめ金目川で捕まえておいたものです。どちらも大きくて貫禄がありました。大勢の子供たちに囲まれ、次々に触られていましたが、嫌がる様子もなく悠然としていました。

子供の時、身近にいる生き物と直接触れ合うことは大切な体験になります。生き物観察会を通して、生き物や自然に関心をもつ子供が増えることを願ってやみません。

みんなが見つけた生き物の記録と、地域の自然を知るための情報誌

「湘南自然誌」を創刊！

学校法人 平岡幼稚園

3月に在園児・卒園児とその家族・教職員等で「平岡いきものはっけん隊」を結成し、その隊報として平成28年7月5日に「湘南自然誌 Vol.1」を発行いたしました。

本誌は、隊の活動報告のほか、毎号特集を組んだり、みんなで集めた生き物記録などを掲載していく予定です。次号は10月下旬頃に発行いたします。

●特集について

毎号、“生き物とあそぼう!”をテーマに様々な特集を組みます。創刊号は、日本生態学会・日本鱗翅学会会員で茅ヶ崎野外自然史博物館顧問の岸一弘先生と「幼児教育における自然体験の意義」をテーマに対談を行いました。

“なぜ自然体験が重要なのか?”“自然とふれあう経験をどう作るか?”“捕まえた生き物を「持って帰りたい!」と言われたら…”“死・いのちについて”など、幼児期の自然とのふれあい活動の重要性について、様々な角度から貴重なお話を頂きました。

今後も、自然に造詣の深い先生方の対談やインタビュー、コラムなどを掲載していく予定です。

●みんなが見つけた生き物の記録

湘南自然誌は季刊です。みんなが見つけた生き物を写真に撮って送ってもらい、各季節に見られた生き物を紹介していきます。

発見するということは、知るということです。“発見する楽しさ”“知ることの楽しさ”をみんなで共有しながら、身近な自然との関わりを深める活動を盛り上げていきたいと思っています。また、これらの情報は、地域の皆さまや研究者の方々にも発信しています。

地域にどんな生き物が住んでいるかがわからないと、地域の自然を守ることはできません。私たちの力は微力ですが、みんなで力を合わせて地域の自然情報を蓄積し、私たちが住む街の自然環境の保全にも役立てていけたらと思っています。なお、紙面の関係上、各号に掲載しきれない記録が多数あるため、年1回生き物記録をまとめたものを、別冊として発行いたします。

2016年の記録のまとめ「別冊 湘南自然誌」は、2017年2月頃に発行予定です。

●さいごに

湘南自然誌は、園児家庭・地域の市民団体などに配付しているほか、文献として研究機関や図書館などにも収蔵してもらっています。詳しくは、平岡幼稚園にお問い合わせください。

【主な収蔵先】
県立生命の星・地球博物館（ライブラリー）
平塚市博物館
大磯町郷土資料館
平塚市中央図書館
大磯町立図書館
など

「湘南里川づくり」取組みのご紹介
～　イベントのご案内　～

“湘南里川（さとかわ）づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。

みんなの会の構成員である「湘南里川見守り隊」は環境関連イベントを実施しております。みんなの会ホームページで紹介しておりますので、ぜひご参加ください。

また、みんなの会としても、今秋は「つるまき市民ふれあいまつり」をはじめとして地域のイベントに出展する予定です。イベントにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

※今後の活動情報は、HPに順次掲載していきます。

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。
詳細は、ホームページで！

里川づくり　検索

お問い合わせ先
湘南里川づくりみんなの会事務局
神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課
電話　（0463）22-9186（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
ホームページアドレス
http://www.satokawa.com/